

## 那須野が原博物館 中期目標項目・評価シート

第3期(令和5年度～令和9年度)

令和5年度

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	期間内目標値	期間内実績値	当年度目標値	当年度実績値	備考
<b>1. 収集・保存・活用・公開</b>							
1-1 資料の収集	<p>収集方針をもとに採集・寄贈・購入等を通して積極的かつ継続的に資料を収集し、デジタルアーカイブ化を進めます。</p>	採集・購入他(全分野) 新規収集資料件数 寄贈(全分野) 収蔵資料総件数 資料に関する情報収集を積極的に行います。	1.地学	50件	1件	10件	1件 化石1件
			2.植物	200件	8件	40件	8件
			3.動物	880件	51件	176件	51件 鳥類6件、爬虫類1件、昆虫類44件
			4.菌類	25件	33件	5件	33件
			5.歴史		13件		13件 松方正義関係資料、観光関係資料ほか
			6.考古		0件		0件
			7.民俗		0件		0件
			8.美術		5件		5件 高久露匪書簡、須藤悟雲ほか
			9.文学		2件		2件 泉湊太郎草稿、菊地忠志隨筆
			寄贈(全分野)		2,885件		2,885件
			1.地学		0件		0件
			2.植物		0件		0件
			3.動物		1,963件		1,963件 昆虫1,963件
			4.菌類		0件		0件
			5.歴史		702件		702件 学校関係、室井利彦家文書ほか
			6.考古		0件		0件
			7.民俗		30件		30件 雛人形、鮎釣り用具、ハマユミほか
			8.美術		186件		186件 相馬寛哉日本画、八木澤啓造竹工芸ほか
			9.文学		4件		4件 泉湊太郎作品
1-2 資料情報の公開	デジタルアーカイブの公開を行い、利用を促進します。	新規収集図書件数 収蔵図書総件数					R6.3.31現在 歴史27,454件、民俗 6,208件、考古4,284 件、文学180件、美術 4,184件、地学704件、 植物6,441件、動物 47,081件
			新規収集図書件数	購入	36件	36件	
			寄贈		556件	556件	
			収蔵図書総件数		18,191件	18,191件	
1-3 資料の適切な管理	収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。  資料の修復等を行い、資料の保	燻蒸回数 資料の修復	那須野が原博物館	5回	1回	1回	1回
			附属施設等	5回	1回	1回	1回 旧日新の館
			歴史資料		5件		5件 裏打ち5件
			考古資料		0件		0件

	仔状態を改善します。	美術資料	12件	12件	日本画1件、マット装等11件	
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。  他の博物館等における資料の貸出・利用を支援します。	展示利用件数	常設展示 企画展示 トピックス展他 黒磯郷土館	1,027件 2,750件 825件 —	1,050点 550件 414件 414件	1,027件 1,050点 165件 414件
			トピックス展他	825件	414件	トピックス展259件、なはくAS21件、日本遺産23件、図書館63件、公民館等40件、ギャラリー展8件
		貸出した資料の件数		63件		地学11件、動物4件、歴史2件、考古41件、美術5件
		貸出・提供した二次資料の件数		106件	106件	画像資料105件、モニュメント類3件
【特記事項】	新規収蔵資料は、全体的に目標値を下回った採集資料は、野外調査にかかる時間の確保が難しいことが課題である。寄贈資料は、動物(ガ類1,963件)・歴史(学校関係資料118件、室井利彦家文書531件ほか)・民俗(雛人形1件、鮎釣り用具22件、ハマユミ4件ほか)・美術(相馬寛哉作品等173件、八木澤啓造竹工芸3件ほか)・文学(泉巌太郎作品4件)の受入れを行った。資料の公開については、歴史(那須開墾社第二農場史料502件)・動物(ガ類1,963件)において実施した。資料の修復については、美術分野で日本画1件・マット装等11件、歴史分野で裏打ち5件を実施した。資料の活用については、全体的に目標値を上回った。トピックス展他には、博物館における展示だけでなく、那須塩原市図書館や公民館等との連携展示での利用数も含んでいる。収蔵資料の貸出先は、栃木県立博物館・さくら市ミュージアム・那珂川町なす風土記の丘資料館・益子陶芸美術館・南相馬市博物館・神栖市歴史民俗資料館・群馬県立自然史博物館である。					
【課題・改善点等】	資料の収集は、今後も採集・購入・寄贈等により継続的に収集していく必要があるが、収蔵庫のスペース不足に伴う資料の安全な保存環境や予算、資料の収集及び整理にかかる業務時間の確保が重要な課題となっている。資料の修復は、優先順位をつけて計画的に進めていく必要がある。資料の公開については、今後も積極的な情報の公開に努める。資料の活用については、引き続き企画展示やトピックス展、なはくアートスポット等において、収集した資料を積極的に利用・公開していく。					
【外部評価委員 所見】	<p>資料の収集については、那須野が原及びその周辺に関わる資料を継続的に収集することが当博物館の使命であるが、当年度は全体的に目標値を下回っている。特に採集資料については、人員不足により採集時間の確保が難しいなどの現実的な問題によるもので、人員不足は今後も危惧されることであり、今後は採集教室の計画や採集ボランティア育成などの新しい取り組みが必要なのではないか。</p> <p>資料購入は、限られた予算ではあるが引き続き購入に努められたい。</p> <p>寄贈資料については、5分野で計2,885件もの寄贈があり大変ありがたいことである。その内、昆虫関係が1,963件で現在の収蔵庫の事情からは適切な収蔵管理が心配される。</p> <p>資料の活用では、市図書館との連携展示が昨年度に統いて大変好評であり、今後も継続的に続けていただきたい。</p> <p>収蔵資料はさらなる積極的なデジタルアーカイブ化を進め、時代に即した資料の公開を行い市民や研究者等による利用を促進していただきたい。</p> <p>資料修復については、少ない予算の中で適切に実施されており、今後も引き続き優先順位決めて計画的に修復等を行い、資料の保存状態を改善されたい。</p> <p>資料の活用については、全体的に目標値を上回っており、収蔵資料の貸し出しについてもこれまで通り積極的に行っていただきたい。</p> <p>これまでに収集された収蔵資料は総計98,536件であり、博物館として適切、且つ安全に保存されるべく収蔵庫の増設が急務であり、収蔵庫の慢性的なスペース不足や人員不足による資料整理業務の停滞など現実的な課題について、早急に適切な人員数を配置して取り組んでいただきたい。</p>					
2. 調査研究						
2-1 調査研究活動の推進	地域に関するテーマや収集・整理・保存、教育普及等博物館活動に関する調査研究を行います。  論文、口頭発表、講演会等により、研究成果を広く市民に還元します。	那須野が原博物館紀要発行回数	5回	1回	1回	1回
		学術論文等の執筆数	20回	4回	4回	4回
		研究成果の口頭発表回数	10回	2回	2回	2回

	講演会の回数	25回	13回	5回	13回	
【特記事項】	那須野が原博物館紀要第20号を発行した。紀要の掲載内容は自然分野が2件(植物1件・昆虫1件)、人文分野が2件(歴史)である。職員が執筆した論文等は、紀要で1件(歴史)、研究会誌への寄稿で3件(昆虫1件、歴史2件)であった。発表は、研究団体で2件(昆虫1件・歴史1件)で行った。講演会は、団体で5件(昆虫1件、地学1件、歴史2件、美術1件)、公民館等で8件(歴史)実施した。また、学術情報検索サイト「J-STAGE」において、那須野が原博物館紀要第19号の掲載論文を全て公開した。					
【課題・改善点等】	業務における調査研究活動の時間の確保と計画的な遂行が必要である。調査研究成果の公表のために、今後も紀要の発行及び発行後1年が経過した紀要掲載論文の公開を毎年実施する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と協働・連携を図り、地域の解明に努めたい。紀要の投稿者の確保が課題となっているため、外部への積極的な声掛けを行う。また、他の博物館をはじめ社会教育施設と連携し、研究成果公表の機会拡大を図る。デジタル化が進む近年のニーズも踏まえ、研究成果の還元方法は、従来の発表会や講演会に限らず、ICTを用いた発表の場も積極的に活用していきたい。					
【外部評価委員 所見】	コロナ感染症も落ち着いてきた昨今、ようやく調査研究にも明るい兆しが見られるようになってきた。今後、那須野が原においても数多くの新たな発見があることを期待したい。 その中で、これまで途切れることなく続いている紀要の発行は、調査研究結果の大切な発表の場となっていることから、今後も継続的な発行が行われることを願う。					
3. 展示						
3-1 常設展示の充実	調査研究によって得られた新たな情報を適宜盛り込み、内容や展示資料の見直しを図ります。					20周年常設展示リニューアル業務を実施(詳細は特記事項参照)。
3-2 企画展示の開催	地域または各テーマに対する市民の理解を深める目的で開催し、資料を有効に活用します。	企画展示の開催回数	20回	3回	4回	3回
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	75,000人	15,218人	15,000人	15,218人
		観覧者の満足度(平均)	90%	94%	90%	94% 物語展94%、昆虫展97%、特別展91%
3-3 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会や展示解説、ワークショップの関連事業を開催し、展示趣旨を分かりやすく伝えます。	図録の発行件数		1件		1件 那須塩原風景画譚
		関連事業の参加率	70%	74%	70%	74% 物語展50%、昆虫展97%、特別展76%
		参加者の満足度(平均)	90%	91%	90%	91% 物語展~%、昆虫展94%、特別展88%
3-4 トピックス展等の開催	資料を積極的に活用するほか、調査研究によって得られた情報を公開します。	トピックス展・なはくアートスポット・ギャラリー展の開催回数	120回	28回	24回	28回 トピックス展12回、アートスポット10回、ギャラリー展6回
3-5 意向調査	市民の意見を積極的に収集し、ニーズの把握に努めます。	意向調査(アンケート)の実施回数	20回	4回	4回	4回 企画展ごとに通年で実施
3-6 附属施設の展示	黒磯郷土館においては、常設展示の見直しを適宜行います。	黒磯郷土館常設展示の見直し				展示資料の変更
【特記事項】	20周年常設展示リニューアル業務として、解説パネル、展示資料及び標本の見直し、入れ替えを行った。また、文化財3Dマップをはじめとしたデジタルコンテンツの導入、体験コーナーの充実を図った。一般公開は6年4月15日予定。3回の企画展示(特別展:「那須塩原風景画譚」、企画展「ひょうほんとものがたり」、企画展:「ムシコレ」を開催。令和5年度観覧者総数:18,487人(うち学校見学2,459人)・利用者数11,744人。学校を除いた企画展示観覧者数は15,218人で目標値を上回った。特別展「那須塩原風景画譚」は、那須と塩原それぞれの特徴を風景画からとらえ、初公開作品を含め、油彩画・日本画・版画など41点の作品(資料2点を含む)を前期・後期に分けて展示した。観覧者数3,865人(目標値4,500人)。企画展「ひょうほんとものがたり」は、創作物や文学作品(主に書籍)と、作中に登場する生物の標本を合わせて展示することにより、作中の姿と実際の姿を比較した。観覧者数は2,631人(目標値2,500人)。企画展「ムシコレ」は、際立った特徴をもつ世界の昆虫を「かがやく」「かくれる」などのキーワードをもとに紹介した。78箱の標本箱と7点の大型モニュメントに加え、エントランスに水槽で生体を展示了。観覧者数は8,484人(目標値6,000人)。特別展の観覧が少なかった要因としては、作家と地域の関係性を充分に深めることができなかつた点や、地学分野の視点で風景画を鑑賞する面白さが伝わりづらかった点などがあげられる。一方、企画展(2回)はいずれも目標値を上回り、今年度は常設展示リニューアルのため例年より1回少なかつたにも関わらず、目標人数を達成した。その他、エントランスギャラリーでは、「なはくの収蔵庫(2回)」や「なはくアートプロジェクト作品展(3回)」などを開催した。					
【課題・改善点等】	美術分野における当館の認知度を向上するために、美術系サークルや個人に向けた発信手段を構築する必要がある。					



【外部評価委員 所見】	<p>昨年度の教室講座の開催数は41回であった。職員スタッフの少ない中で、講座の準備と実施をされ、参加者のほとんどが90~100%という高い満足度を得ていたことに対し、敬意を表します。</p> <p>しかも、その内容も子供向け、親子向け、一般の大人向けと多彩であったと思います。特に、子供向けの内容は、化石、昆虫、カエル、キノコ、アート、土器、宇宙等と生き物の観察、作品の制作、地質や天体と本当に幅広い分野にわたっていました。</p> <p>子供たちにとっては、いろいろな興味深い講座だったと推察されます。また、一般の大人向けでは、那須地域の自然、歴史や民俗等の内容が企画、実施されました。この大人向けの内容と回数は、毎回苦労していると思いますが、内容の検討をさらにすすめ、より一層の講座の充実を期待します。</p> <p>新型コロナウイルス感染症も、だいぶ落ち着いてきたので、親子体験チャレンジや博物館フェスタの持ち方は、以前に戻りつつあります。親子体験チャレンジでの未就学児の取り扱いは、参加者の要望をできるだけ受け入れながらも、担当者の指導と他の参加者の作業に支障がないよう配慮することが大切だと思います。</p> <p>フェスタについては、確かに入場者の流れは、ほぼお昼前後がピークで、午後は少なくなっていました。その点で、よくばり親子チャレンジのメニューは、午前午後通しての実施にすることが適切かもしれません。</p> <p>いずれにしても、ボランティアスタッフの高齢化の進展は止まりません。いろいろな媒体を通して、または博物館内の掲示板にも、常時スタッフ募集の掲示をしてみてはいかがでしょうか。</p>					
	<p>5. 地域との連携及び市民との協働</p>					
	5-1 市民との協働	自主団体を支援し、市民による教育普及活動を促進します。	市民に活動成果を発表する場を提供します。	14件	14件	エントランス利用5件(若月・倉本・水の会・田空・自然調査会)、石ぐら会1件、那須文化研究会2件、那須資料ネット1件、宇都宮大学1件、日本オオタカネツトワーク1件、水の会1件、塩原ビバ2件
			施設の利用者人数(学校を含む)	40,000人	11,744人	8,000人
	5-2 地域との連携及び学術的な支援	市民や地域の組織、他の博物館等の関係機関との連携・協働により、資料の収集・整理、調査研究及び教育普及活動を行います。	連携事業件数	10件	10件	図書館2件、県立博物館2件、三島公民館1件、大山公民館1件、西公民館2件、ギャラリーコンサート1件、環境展1件、
		博物館の資料をもとに、文化財保護や環境保全等に関する活動を学術的な側面から支援します。	支援件数	7件	7件	県RDB3件、市動植物調査1件、市文化財審議会1件、市副読本編集委員会1件、大田原市那須与一伝承館運営懇談会委員1件
5-3 学校教育との連携	自主団体との協働により、学校見学で来館する児童生徒に対して、展示案内・体験学習等を行い、地域の特性や先人たちの想いを伝えます。	学校来館数(那須野が原博物館)	63校	63校		
		学校来館数(黒磯郷土館)	7校	7校		
	学校と連携して、博物館の資料を授業で活用できるよう努めます。また、要望に応じて職員や専門家を派遣します。	資料貸出件数	16件	16件	DVD10件、民具2件、開拓4件	
		出張授業件数	8件	8件	楢沢小1件、西小1件、埼玉小1件、東小2件、大山小1件、石上小1件、高林中1件	

5. 地域との連携及び市民との協働						
5-1 市民との協働	自主団体を支援し、市民による教育普及活動を促進します。	市民に活動成果を発表する場を提供します。	14件	14件	エントランス利用5件(若月・倉本・水の会・田空・自然調査会)、石ぐら会1件、那須文化研究会2件、那須資料ネット1件、宇都宮大学1件、日本オオタカネツトワーク1件、水の会1件、塩原ビバ2件	
		施設の利用者人数(学校を含む)	40,000人	11,744人	8,000人	11,744人
5-2 地域との連携及び学術的な支援	市民や地域の組織、他の博物館等の関係機関との連携・協働により、資料の収集・整理、調査研究及び教育普及活動を行います。	連携事業件数	10件	10件	図書館2件、県立博物館2件、三島公民館1件、大山公民館1件、西公民館2件、ギャラリーコンサート1件、環境展1件、	
	博物館の資料をもとに、文化財保護や環境保全等に関する活動を学術的な側面から支援します。	支援件数	7件	7件	県RDB3件、市動植物調査1件、市文化財審議会1件、市副読本編集委員会1件、大田原市那須与一伝承館運営懇談会委員1件	
5-3 学校教育との連携	自主団体との協働により、学校見学で来館する児童生徒に対して、展示案内・体験学習等を行い、地域の特性や先人たちの想いを伝えます。	学校来館数(那須野が原博物館)	63校	63校		
		学校来館数(黒磯郷土館)	7校	7校		
	学校と連携して、博物館の資料を授業で活用できるよう努めます。また、要望に応じて職員や専門家を派遣します。	資料貸出件数	16件	16件	DVD10件、民具2件、開拓4件	
		出張授業件数	8件	8件	楢沢小1件、西小1件、埼玉小1件、東小2件、大山小1件、石上小1件、高林中1件	



6. 施設の管理運営						
6-1 施設の維持管理	施設及び設備の保安業務、清掃業務及び維持管理業務等を行うとともに、計画的に危機の修繕や更新を行い、快適な環境の保全に努めます。	保安、清掃及び維持管理業務の実施、計画的な機器の修繕・更新				館内及び館外清掃業務、施設・機器等保守管理業務については通年で実施。 修繕業務は、空調用加湿器修繕、非常用照明修繕、冷温水発生機(1号機)基盤等修繕、オイルタンク油量回計用マンホール蓋修繕、空調機関係電子指示調節計修繕、黒磯郷土館漏水修繕工事等
6-2 危機管理体制の強化	利用者の安全を確保するため、防災訓練や救急救命講習等を実施し、危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数 救急救命講習の実施回数	10回 5回	2回 0回	2回 1回	2回 0回
6-3 施設の整備	高齢者、障害者、外国人等へ配慮した施設の整備に努めます。			0件		0件 実施なし
6-4 収蔵資料の適切な保存	収蔵資料の適切な保存のために、収蔵庫の拡充を検討します。	収蔵施設等の増設				実施なし
6-5 附属施設の管理運営	黒磯郷土館の適切な管理運営に努めます。	黒磯郷土館来館者数 黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	7,500人 90%	1,383人 94%	1,500人 90%	1,383人 94%
6-6 組織運営	組織の適正な人員配置等、効率的な運営に努めます。					実施なし
6-7 意識改革と資質の向上	研修会等に積極的に参加し、職員の能力開発、資質向上に努めます。					全国科学博物館協議会研修1件
6-8 広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数 ホームページの閲覧回数 SNSの情報発信回数	200回 605,000回 600回	13回 121,000回 55回	40回 120回 120回	13回 Google analytics仕様変更のため計測不可 X(旧Twitter)25回、みるメール30回
6-9 博物館評価	那須野が原博物館の使命、方針及び中期目標に基づいて評価を行い、博物館活動の改善に努めます。					評価の実施有
【特記事項】	<p>新型コロナウイルス感染症対策の制限はなく、すべての事業を実施することができた。</p> <p>博物館においては、適切な施設管理を図るために、非常灯の修繕、冷温水発生機の修繕、電子指示調節計修繕、空調用加湿器の修繕、オイルタンクの水漏れ修繕を実施、黒磯郷土館においては水道の漏水修繕を実施した。館内施設の利用率向上の一環として体験学習室に設置した簡易的なキッズスペース「なはくルーム」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため閉鎖したが、今年度再開の運びとなった。旧日新の館は、博物館資料の一時的な仮収蔵施設として継続して利用、燻蒸を実施しつつ適切な管理に努めている。収蔵施設の増設については、実現にはいたっていない。</p> <p>人員では、1名の減のままであるため、再任用職員にも対象を広げ引き続き職員の補充を要求していきたい。</p> <p>メディアの掲載件数は、常設展リニューアル工事にともない展示室を閉鎖し、企画展が例年より少なくなったことで、昨年度の30回より少なくなった。</p> <p>ホームページ閲覧回数は、アドレス変更に伴う不具合で計測ができなかった。みるメールやツイッターで企画展や教育普及事業を紹介し、3月末までに計55回配信し、SNSを使っての情報発信に努めた。</p>					
【課題・改善点等】	<p>救命講習については、未実施となってしまったので、機会をとらえて講習会へ参加を進めたい。施設設備については、冷温水発生機において経年劣化による大規模修繕が必要となり、今後様々な設備で大規模修繕が出てくるので、計画的に実施していく必要がある。</p> <p>情報発信については、Twitterでこまめに情報発信をし、みるメールにおいて登録者にダイレクトに情報を配信するなど、積極的に広報活動を実施した。効果的な情報発信の方法を検討しつつ継続していきたい。</p>					

収蔵施設の増設について、実現に至ってていないことは、まことに残念であり問題である。

自然・歴史・文化的な資料を後世へ伝えて行くことは、現在生きる私たちの使命であり、後世に対する責務と考える。継続的な収集とともに、現在収蔵されている資料の適切な保存管理が必要であるが、仮収蔵場所としての日新の館の保存環境はカビの発生など、決して良いという状況ではなく、本来の保存管理を行う場所でないことを物語っている。早急なる収蔵庫の増設を望むものである。

【外部評価委員 所見】  
また、那須野が原博物館は20年を経過し、諸施設・所機器の経年劣化が進行し、特に空調の経年劣化により運転停止ともなれば、博物館全体の問題にもかかわるものである。計画的に執行部への説明、働き掛け等を繰り返していただきたい。

救命救急講習会は本年も実施されなかったようであるが、博物館へのお客様と共に博物館関係者の命にも関わることであり、是非計画的に実施を望むものである。

広報体制としては、マスコミやメディア・X・みるメール等への情報提供をこまめに発信し、展示だけでなく講座・教室・イベント等についても発信し、露出度を増し博物館の活動をアピールしていただきたい。博物館事業の満足度は全体的に高いものであり、その入口となる広報媒体により多くの人たちが来館するツールとして有効的に活用していただきたい。

#### 【外部評価委員 総合所見・指摘事項】

20周年常設展示リニューアルの業務多忙の中、令和5年度の運営や諸事業が一定の成果を得たことは評価したい。今後は、リニューアルの目玉となる文化財3Dマップを中心としたデジタルコンテンツや体験コーナーの活用が市民に浸透するよう期待したい。

昨今の地球環境の急変による自然災害の巨大化や歯止めが利かない少子高齢化による生活環境の激変は、地域の文化遺産の消滅の危機を増大させている。そのような中にあって、博物館の基本使命である地域資料の収集・保存が、予算縮小や収蔵施設の狭隘化で低下・後退してはならない。博物館地域文化啓発に資する博物館として収蔵庫の増設を実現すべく、計画的かつ積極的な地域資料の収集・保存・活用・公開に努められたい。

調査研究においては、諸機関や市民活動との連携強化に努めて、市民と共に歩む博物館の具現化をさらに図っていただきたい。

展示分野では、市民が興味を持って足を運ぶような内容になりつつあるが、多様化している広報媒体の特性や機能を精査して、市民のさらなる認知度や理解度深化を図られたい。

教室講座では、職員スタッフとボランティアとの連携で成果があったが、学芸員不足やボランティアスタッフの高齢化が、今後も成果を得られるかが不安である。市民に開かれた博物館機能を損なわないよう対策を講じられたい。

地域連携および市民協働においても、日本遺産認定による構成文化財の認知度向上や文化観光活用のために諸機関との連携や市民活動の支援・啓発が今後の大きな課題になろう。展示・講座・見学会などを展開しつつも、博物館の運営や事業との整合性を図られたい。

施設の管理運営については、新型コロナ感染症も落ち着いてきてはいるが、天候不順による体調不良や自然災害の危険度が増大している状況下、来館者の健康管理や体験学習の安全・保安に対する職員の危機管理意識の向上を図ると同時に、資料保存・管理においても施設機能の保全や安全管理に努められたい。

#### 【博物館の対応】

令和5年度からは、第三期が始まり博物館評価も定着してきている。教室講座や企画展は、ほぼ計画どおり実施することができ、開館20周年常設展示リニューアル事業についても無事完了することができ、内容等についても好評を得ることができた。資料の収集や調査研究も限られて予算を有効に活用し、継続して実施することができた。調査・研究においては、紀要の発行を継続的に行うことで、資料の記録化を継続していくとともに成果を市民に還元することが重要と考えている。調査については、各分野ごとに個々に進めているのが現状である。SNSを活用した情報発信を推進し多くの市民等に様々な博物館の情報を提供することができた。また、那須文化セミナーの映像配信も好評を得ていることから、継続して実施してゆきたい。

博物館関連団体においては、新会員の確保や会員の高齢化が問題となっており、実施可能な方法を団体と協議しつつ事業を実施していく時期にきている。学校見学の対応については、できるだけ多くの学校を受け入れるようにしてきただが、学校の統廃合による校数減少やバスの確保等の問題などが影響していると思われるが、来館する学校数が今一つ伸びない。小学3年生については、家電を中心としたメニュー や体験を導入し、校には概ね好評を得ている。資料の貸出しや出張授業についても、一定程度の需要はあったので、さらに充実を図っていきたい。

現在、新収蔵庫の建設が難しくなっている現状をふまえ、随時収蔵庫のスペース確保を実施しつつ資料の収蔵を進めているが、根本的な解決には至らない。それ以前に、現在使用している空調制御システムや冷温水発生機が耐用年数を過ぎており故障すると現在収蔵している資料に悪影響を及ぼすことから、空調制御システムの改修、次に冷温水発生機の新設を急ぎ、それら完了してから新収蔵庫の見通しをつける必要がある。優先順位を付け計画的に施設・設備の整備をすすめていく必要がある。また、博物館の人員体制についても十分なものではないことから、人員の充実についても継続して要望をしていく。

#### 外部評価委員

令和6年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員

谷田 恵一 高根沢広之 木村 康夫 月井 誠一 千葉 昭彦  
金井 忠夫 後藤 英雄 大塚 好一 松村 雄 君島 章男